北陸病虫研報　50：19～27（2002）
Proc. Assoc. Pl. Prot. Hokuriku No.50, 2002

北陸病害虫研究会50年のあゆみ

川久保　幸　雄
福井県植物防疫協会

はじめに

北陸病害虫研究会は昭和24（1949）年２月18日，長野県農事試験場で産声をあげた。以来半世紀を超える年月を経て，2001年現在では個人正会員は330名を超え，団体正会員は84団体，賛助会員は22社と大きな研究会に発展した。学術的価値の高い研究会報の印刷部数も，一号当たり約800冊にもなっている。

本研究会から生まれた研究成果は，北陸地域のみならず，わが国の農業技術の発展に多大な貢献をしたばかりでなく，植物病理，応用昆虫，農薬，栽培，その他関連する学問の発展にも寄与するところが大きかったと思われる。

先輩の方々の献身的なご努力と，北陸農業試験場病害・虫害両研究室の大変なご尽力，そして大学，県，団体，企業，農業者その他多くの現行会員各位の熱意があってこそ，この記念の節目が迎えられたことと思う。会員の一人として，心からお慶び申し上げる。

本稿をまとめるに当たり，記載がなかったり，資料が散逸していたりして不確かな部分もあるが，以下，北陸病害虫研究会の50年を振り返り，将来の更なる発展の資としたい。

Ⅰ　研究会設立前後の社会情勢および植物防疫事情

第１表に研究会が設立された1949（昭和24）年前後の社会情勢および植物防疫事情を示した。この時期は，我が国では第二次世界大戦後の動乱がまだ治まっていないものの，諸制度の整備が徐々に進み，社会にようやく明るい兆しが見え始めてきたころである。

農業では食糧増産が叫ばれ，植物防疫面では，植物防疫法，農薬取締法など重要な法案が制定され，発生予察事業の拡充強化が図られた。農薬のBHC，DDTが登録され，それとともに実用的な防除機具が市販され出した時期でもある。

第１表　研究会設立前後（1948～'50）の社会，植物防疫事情①

	1948（昭和23）年	1949（昭和24）年＝設立	1950（昭和25）年
一　般	・芦田内閣成立 ・吉田内閣（第２次）成立 ・極東軍事裁判判決宣言 ・福井地震（6/28、M7.3，死者3,895人）	・第24回総選挙 ・吉田内閣（第３次）成立 ・郵政省，国鉄・専売公社等発足 ・シャープ勧告	・自由党結成（吉田茂総裁） ・警察予備隊設置 ・公職選挙法公布 ・地方公務員法公布 ・日本労働組合総評議会（総評）結成
文　化	・新制高校発足 ・日本学術会議成立 ・国会図書館開設 ・登呂遺跡発掘 ・改正民法，新戸籍法実施	・新制国立大学69校開学 ・１$＝360円決定 ・湯川秀樹，ノーベル賞受賞 ・谷崎潤一郎「細雪」を著す ・法隆寺金堂壁画焼失	・文化財保護法公布 ・中尊寺ミイラ学術調査 「チャタレイ夫人の恋人」の訳者、発行者起訴 ・短大発足（149校）
社　会	・国民の祝日決定 ・教育勅語の排除決定 ・主婦連結成 ・労働争議激化 ・帝銀毒殺事件発生	・芥川・直木賞復活 ・道路の対面交通実施 ・年齢の数え方「満年齢」 ・全米水泳選手権で古橋、世界新記録 ・松川事件発生	・ソ連、日本人捕虜送還完了 ・金閣寺焼失 ・千円紙幣発行 ・全学連ゼネスト ・ジェーン台風来襲（京阪神） ・朝鮮戦争による特需景気 ・平均寿命60才を超える

第１表　研究会設立前後（1948～'50年）の社会，植物防疫事情②

	1948（昭和23）年	1949（昭和24）年＝設立	1950(昭和25)年
農　　業	・食糧増産１割運動 ・地区および都道府県農業改良委員会設置 ・農業改良普及事業始まる ・全国農業協同組合連絡協議会発足 ・農林中央金庫新発足	・食糧事情安定化 ・農林省、食糧庁を設置 ・第1回米価審議会開催 ・農業関係試験研究機関整備要綱決定 ・農業講習所が各都道府県の農事試験場に併設	・物資の配給，価格統制を次々に撤廃 ・農林省，農業関係試験研究機関の整備総合を実施 ・日本農林規格JAS制定
植物防疫・その他農業技術	・発生予察事業の拡充強化 ・農薬取締法公布(7/1) ・第1回農薬審議会開催 ・DDTの登録、実用化 ・ニカメイガ防除のための青色蛍光誘蛾灯の使用中止勧告（天敵誘殺の理由） ・大型動力散粉機実用化	・いもち病に対する有機水銀剤の著効発見(小川正行) ・ウンカ類の発生が多く，BHCを注油駆除に代わって使用 ・2,4－D，全国的に水田稲作実用化試験開始 ・BHC，登録，実用化，製造開始 ・手動式散粉器の普及	・植物防疫法施行 ・毒物および劇物取締法施行 ・木材・穀類・マメ類などの検疫開始 ・葉いもちが全国的に大発生 ・背負動力散粉機，実用化 ・植物成長調節剤試験開始（野菜）

Ⅱ　研究会の発足

1　研究会設立の趣旨

北陸病害虫研究会の初代会長である北陸農業試験場長　秋濱浩三氏は，北陸病害虫研究会報第１号の序文で，研究会設立の趣旨について次のように述べている。

「病害虫の発生に依って蒙る作物の被害が，年々莫大な量に達することは人のよく知るところであるが，北陸地方では，本問題は特に注目すべき事項である。麦類や紫雲英等，重要裏作物の雪害が，主として雪腐病に基因することや，水稲冷害の防止に関する問題の大半は，稲熱病対策に帰着する等のことは別としても，最近各地で重要視される稲菌核病や，麦の銹病等を始めとし，ダイズの豊作を左右する虫害，或いは畑作害虫の問題，更に果樹，蔬菜等に及ぶこと実に枚挙にいとまがない。

北陸地方農業を制約するものは病害虫の発生にあると云うも過言ではないであろう。而も多雨多雪の特異条件下にある裏日本諸地方や，地勢気候極めて複雑な長野県を含む当地域では，病害虫の種類並に其の発生機構も，他地域とは自ら異なるものがあり，従って其の防除対策も独自の方法が考案さるべきであろう。北陸地方農業の安定上，病害虫の研究が重視される所以は茲にあると思う。

今回当地域に在って，病害虫の研究並びに防除の指導に当たる同学の志が相寄り，北陸病害虫研究会を結成し，相携えて，当地方農業の安定化に寄与することを誓ったことは，ひとえに慶賀に堪えない次第である。(原文のまま)」

当時は，病害虫に関する研究者数の増加に比べ研究発表の機会が少なく，発表の場を多くするために研究会が組織された，との見方も後年なされた（小野，1990)。

また，北陸農学会を設立し，その傘下に病害虫など各種の研究会をおくという雄大な構想もあったようである（この考えは最終的には実現しなかった)。

さらに，北日本病害虫研究会などでは「病害虫関係者の情報交換，相互連携，特に研究と普及との結合が大切であり，研究成果をできるだけ早く他の研究者や農家に知らせ，役立たせる必要がある。」との考えもあった（徳永，1951)。

1985年ころまでは研究会参加者全員の記念撮影が発表の合間に行われており，まとまりのよい，親睦団体としての一面も初期には強かった。なお，1985年には学術団体に指定された。

このように，北陸病害虫研究会は，我が国地域病害虫研究会の中では長い歴史を有し，地域農業の発展を目指す，

意欲あふれる研究会としてスタートしたといえる。

2　各地域の病害虫研究会の設立年月，会報発行年月

各地域の病害虫研究会の設立年月，会報発行年月を第２表に示した。本表からも明らかなように，我が国には現在，北陸の他，北日本，関東東山，関西，四国および九州と，六つの地域病害虫研究会があり，この中で，北陸は九州に次いで古く設立され，会報の発行は，六病害虫研究会の中では最も早くなされた。

第２表　各地域の病害虫研究会の設立年月，会報発行年月など

研究会名	設立年月	会報第１号発刊年	2001年度までの発行号数	備　　考
九州病害虫研究会	1938年10月	1955年11月	47	1924年に開催した病虫害研究同好会が起源。
北陸　〃	1949年２月	1950年１月	49	
北日本　〃	1951年１月	1950年７月	52	1945年に開催した第１回東北６県病理害虫講演討論会が起源。ブロック会議から講演会へ
関東東山　〃	1954年２月	1954年９月	48	
四国　〃	1954年９月	1966年	36	
関西　〃	1957年２月	1958年12月	44	

Ⅲ　研究発表会の歩み

設立当初から現在までの研究会開催の足跡を第３表に示した。1949年の第１回研究会の講演数は13題，出席者数はおそらく30名程度であったと思われる。1969年の第21回発表会から参加者数が増え，常時100名を超えるようになった。第１回から現在（2002年２月）まで54回の研究発表会が北陸４県および長野県で開催されており，資料のある年の合計だけで一般講演数は1,347，参加者総数は4,959名の多きにのぼっている。

2001年12月現在の会員数は，個人正会員が337名，団体正会員は84団体，賛助会員は22社となっている。1975年の第27回大会で名誉会員制の導入が決議され，現在２氏が名誉会員となっている。

運営に変化をもたすため，時々の話題をとらえた特別講演やシンポジュームが開催されている。

第３表　研究発表会開催の足跡①

年	回数	開催場所，月日	特別講演	一般講演数	参加数	その他（特記事項）
1949	1	長野市「長野県農事試験場」で設立総会 第１回研究会（2/18）		13		・役員の選出 ・会則取り決め
'50	2	富山市「富山農試」で第２回研究会（1/11）		13		
'51	3	金沢市「石川農試」で第３回研究会（1/10-11）		21		
'52	4	長野市「長野農試」で第４回研究会（1/9）	上遠　章氏 大八木　氏 鈴木照麿氏	51		・特別講演
'53	5	高田市「北陸農試」で第５回研究会（3/16）	鐙谷大節氏	33		
'54	6	福井市「福井農試」で第６回研究会	石井象二郎氏	34		
'55	7	長岡市「新潟農試」で第７回研究会	石倉秀次氏	33		
'56	8	高田市「北陸農試」で第８回研究会	玉利勤次郎氏	33		・研究会の英名ができる

第３表　研究発表会開催の足跡②

年	回数	開催場所，月日	特別講演	一般講演数	参加数	その他（特記事項）
'57	9	高田市「北陸農試」で第９回研究会（3/13）	平井篤造氏 山崎輝男氏	31		
'58	10	富山市「富山農試」で第10回研究会（2/13）	長谷川吉正氏 石山哲爾氏	33		
'59	11	高田市「北陸農試」で第11回研究会（3/15）	安尾　俊氏		44	
'60	12	金沢市「石川農試」で第12回研究会（2/12）	国井喜章氏			・会則の改正 会長、副会長、評議員、庶務幹事、編集幹事、会計幹事の現体制となる
'61	13	高田市「北陸農試」で第13回研究会（3/9）	上田勇五氏			・「イネ白葉枯病に関するシンポジューム」の開催
'62	14	福井市「農協会館」で第14回研究会（3/4）	望月正巳氏 友永　冨氏	24		・「農薬の空中散布に関するシンポジューム」の開催
		高田市「北陸農試」で第15回研究会（3/15）	川瀬英爾氏	21	62	
'63	15	新潟市「医師会館」で第16回研究会（2/9）		29	115	
'64	16	高田市「婦人会館」で第17回研究会（3/17）	望月正巳氏	24		
'65	17	金沢市「合同庁舎」で第18回研究会（2/9）		22	99	
'66	18	富山市「昭和会館」で第19回研究会（2/15）	上島俊治氏	14	118	
'67	19	高田市「婦人会館」で第20回研究会（3/16）		23	87	
'68	20	福井県芦原町「芦泉荘」で第21回研究会（2/15）	杉山章平氏	25	104	・会則の一部改正 ・会長が北陸農試場長以外の人に
'69	21					
'70	22	新潟市「土地改良会館」で第22回研究会（2/14）		20	126	・スライド紹介
'71	23	富山市「農協会館」で第23回研究会（2/8）		23	126	・８ミリの利用
'72	24	上越市「日報ホール」で第24回研究会（3/12）	河野達郎氏	18		・「休耕田の病害虫に関するシンポジューム」の開催
'73	25	福井県金津町「農協会館」で第25回研究会（2/17）		28		
'74	26	新潟市「新潟会館」で第26回研究会（2/13）		18	120	・「イネばか苗病に関するシンポジューム」の開催
'75	27	富山市「呉羽ハイツ」で第27回研究会（2/12）	田村市太郎氏 小野小三郎氏 上田勇五氏 杉本達美氏 梅原吉廣氏	15	140	・会則の一部改正 ・名誉会員制の導入
'76	28	七尾市「和倉グランドホテル」で第28回研究会（2/17）	田村市太郎氏	22	150	

第3表　研究発表会開催の足跡③

年	回数	開催場所，月日	特別講演	一般講演数	参加数	その他（特記事項）
'77	29	上越市「上越婦人会館」で第29回研究会（3/9）		35	120	
'78	30	長岡市「東泉閣」で第30回研究会（2/17）		23	120	
'79	31	富山県宇奈月町「福祉センター」で第31回研究会（2/9）		23	135	
'80	32	小松市「ホテル雲井」で第32回研究会（1/31）		22	150	
'81	33	福井県金津町「農協会館」で第33回研究会（1/31）		25	140	
'82	34	新潟県大潟町「鵜の浜ニューホテル」で第34回研究会（1/29）		25	130	・会費（会報代）の値上げ
'83	35	上越市「上越婦人会館」で第35回研究会（3/14）		22	130	
'84	36	金沢市「石川県青年会館」で第36回研究会（2/16）		33	170	・講演要旨集の作成
'85	37	福井県金津町「社会福祉センター」で第37回研究会（2/15）		30	150	・学術団体に指定（7/19）
'86	38	長岡市「ホテルニューオータニ長岡」で第38回研究会（2/6）		29	170	
'87	39	富山市「勤労総合福祉センター」で第39回研究会（2/7）		29	170	
'88	40	金沢市「ホテル六華苑」で第40回研究会（2/5）		21	170	
'89	41	福井県芦原町「ホテル美松」で第41回研究会（2/2）		37	140	
'90	42	長岡市「ホテルニューオータニ長岡」で第42回研究会（1/31）	小野小三郎氏	37	170	
'91	43	富山市「高志会館」で第43回研究会（1/25）		27	140	
'92	44	金沢市「ホテル六華苑」で第44回研究会（1/24）		34	120	
'93	45	福井県芦原町「グランディア芳泉」で第45回研究会（1/22）		32	139	
'94	46	長岡市「ホテルニューオータニ長岡」で第46回研究会（2/4）		33	157	
'95	47	富山市「高志会館」で第47回研究会（1/27）		29	180	
'96	48	石川県山中町「ほくりく荘」で第48回研究会（1/25－26）		30	139	
'97	49	福井市「福井県国際交流会館」で第49回研究会（1/30）		29	150	
'98	50	長岡市「ホテルニューオータニ長岡」で第50回記念大会（2/17－18）	奈須田和彦氏 吉野嶺一氏 小嶋昭雄氏 名畑清信氏 松浦博一氏	27	165	・記念大会 ・特別講演

第３表　研究発表会開催の足跡④

年	回数	開催場所，月日	特別講演	一般講演数	参加数	その他（特記事項）
'99	51	富山市「高志会館」で第51回研究会（2/16－17）		29	143	
'00	52	金沢市「石川県女性センター」で第52回研究会（2/9－10）		28	134	
'01	53	福井市「福井県国際交流会館」で第53回研究会（2/15－16）		28	136	
'02	54	長野市「勤労者女性会館しなのき」で第54回研究会（2/28－3/1）		36	148	・正会員個人 337 〃　団体　84 ・賛助会員　22社 （2001年12月現在）
合計			33氏	1347	4958	

注）'54，'55，'60年の開催場所は推定。その他欄の太字は新たな企画，特色を示す。

Ⅳ　研究会報刊行の歩み

設立当初から現在までの研究会報の刊行状況を第４表に示した。1950年の第１号から現在（2002年２月）まで49号が刊行され，総報文数は1,104編の多きに達している。

この間に，学術雑誌としてのスタイルを整えるとともに，論文内容の充実が図られた。また，初期の会員には地域農業の発展とともに研究会は存在する，との思いが強く，地域の実情を紹介する記事がしばしば登場した。さらに，読者が親しみをもてるような会報にしたい，との編集方針が刊行初期には非常に強く，ユニークな記事が誌面を飾った。編集者の苦労が偲ばれる。

以下，各項目について，発展の道のりを辿る。

1　投稿規定の制定と改正

投稿規定が1956年に制定され，以後２回の改正が行われた（'60，'85）。研究投稿表の差し込みが1989年から始まった。

2　学術雑誌としてのスタイルの整備

英文会報名（Proceedings of the Association for Plant Protection of Hokuriku），会報の略称（和名＝北陸病虫研報，英名＝Proc. Assoc. Pl. Prot. Hokuriku）が決められ（'56），1958年には英文 Summary が初めて載り，英文目次（'69），報文の英文タイトルの記載（'74），ISSN番号（'80），評議員などによる論文内容の審査（'86）などが続いた。また，印刷基準が改正され（'74），無償別刷部数の改正も行われた（'79）。

研究会での講演要旨をそのまま記載することも1988年から始まった。賛助会員の広告が1956年から掲載された。

3　内容の充実

白黒写真が'57年に，電顕写真が'60年に，カラー写真が'68年に初めて載った。また，1956年までの会報には，研究会での講演の内容のみが記載されていたが，1957年から報文が初めて登載され，以後，総説（'58），短報（'59），研究評論（'81），論説（'91），シンポジュームの要旨（'61，'94，'96），技術解説（'56），研究資料（'76）などが掲載された。

なお，田村　実氏（元石川県農業試験場長）のご努力により，総目次（第１号～第30号）が1985年に刊行された。

4　地域の状況の紹介

ブロック会議だより（'56），普及技術の広場から（'56），本年度の病害虫防除指針（'58），北陸農試・北陸４県農試の研究成果抄録（'63），北陸各県における病害虫の発生と防除の概要（'91）などが記載された。

5 会員間の交流および親しみのもてる会誌への取り組み

会員の声（'56），質疑応答（'56），随録（'59），芳声・真語，編集放談（'63），科学随想（'76），トピックス（'71），会員の訃報（'89）などの記事が掲載された。

6 研究会の運営状況の報告

会計報告が1970年から，会務報告が'71年から始まった。

第4表 研究会報刊行の歩み①

年	号数	頁数	特別寄稿・記念講演要旨数	一般講演要旨数	報文数	その他（特記事項）
1950	第1号	34		13		・序文，あとがき
'51	第2号	52		13(第2回) 21(第3回)		
'52						
'53	第3号	68	1（記念）	46(第4･5回)		・編集後記
'54						
'55						
'56	第4号	146	3（記念）	97		・投稿規定を設ける ・技術解説（2編） ・最近の新農薬概観と応用法（4編） ・ブロック会議だより（2編） ・普及技術の広場から（4編） ・新農薬企画だより（4編） ・会員の声 ・質疑応答 ・賛助会員広告を掲載 ・英文会報名を記載 ・会報の略称（和名、英名）を記載
'57	第5号	87	2（記念）	31	3	・報文が初めて載る(それまでは講演要旨の記載) ・白黒写真が初めて載る
'58	第6号	117	2（記念）	33	2	・総説の記載（1編） ・英文Summaryが初めて載る ・本年度の病害虫防除指針を掲載
'59	第7号	135	1（特別）		34	・小報を載せる（抄録速報1編，短報2編，研究紹介3編，要録3編）， ・随録を載せる（トッピクス2編，余滴3編，寸録1編，天象・地象1編，天眼・地眼1編）
'60	第8号	130	1（特別）		42	・電顕写真が初めて載る ・投稿規約を定める
'61	第9号	120	1（特別）		32	・「短報」を初めて登載（10編） ・シンポジュームの要旨を記載（4編）
'62	第10号	106	2（記念）		36	・短報（7編） ・シンポジューム要旨（7編）
'63	第11号	79	1（特別）		29	・芳声・真語を記載（1編） ・北陸農試・北陸4県農試の研究成果抄録を記載 ・編集放談
'64	第12号	86	1（特別）		34	
'65	第13号	101			32	

第４表　研究会報刊行の歩み②

年	号数	頁数	特別寄稿・記念講演要旨数	一般講演要旨数	報文数	その他（特記事項）
'66	第14号	94			31	
'67	第15号	105	1（特別）		37	
'68	第16号	102			32	・カラー写真が初めて載る
'69	第17号	136	1（記念）		43	・寄贈図書目録を記載 ・英文目次を記載
'70	第18号	104			31	・会計報告を記載
'71	第19号	126			33	・トピックスを記載（１編） ・会務報告を記載
'72	第20号	109	1（記念）		25	・シンポジューム要旨（７編）
'73	第21号	129			34	
'74	第22号	114			31	・シンポジューム要旨（５編） ・報文の英文タイトルを記載 ・印刷基準を改正
'75	第23号	132	5（記念）		35	
'76	第24号	95			27	・科学随想を記載（１編） ・資料を記載（１資料）
'77	第25号	99			30	・資料1
'78	第26号	96			28	
'79	第27号	58			15	・無償別刷部数の改正
'80	第28号	105			30	・ISSN番号がつく ・研究会での発表課題名を記載
'81	第29号	114			28	・研究評論（１編）
'82	第30号	144			36	
'83	第31号	104			24	
'84	第32号	128			32	
'85	第33号	120			26	・投稿規約を一部改正 ・総目次の刊行（第１号～第30号）
'86	第34号	74			19	・評議員による論文内容の審査が始まる
'87	第35号	76			19	
'88	第36号	86		21	20	・講演要旨の記載
'89	第37号	70		37	17	・研究投稿表の差し込み ・会員の訃報を掲載
'90	第38号	124	1（特別）	37	26	
'91	第39号	120		27	19	・論説（１編） ・北陸各県における病害虫の発生と防除の概要
'92	第40号	97		34	15	
'93	第41号	117		32	19	
'94	第42号	133		33	25	・特集（平成５年の異常気象に伴うイネいもち病の多発生）
'95	第43号	87		29	12	
'96	第44号	102		30	14	・特集（農薬散布技術の問題点とその改善方向）
'97	第45号	102		29	14	
'98	第46号	104	5（特別）	27	8	

第4表　研究会報刊行の歩み③

年	号数	頁数	特別寄稿・記念講演要旨数	一般講演要旨数	報文数	その他（特記事項）
'99	第47号	60		29	9	
'00	第48号	71		28	10	
'01	第49号	46		28	6	
合計			29	675	1104	

注）その他の欄の太字は新たな企画，特色を示す。

V　今後のさらなる発展に向けて

小野小三郎氏（1990）は，会報の中で，北陸病害虫研究会および研究会報を中間評価し，次のように記している。本研究会の特色として，①研究者層が厚いので，同じ課題でも様々な捉え方を通して研究を深化できている，②同じ研究室，近縁・遠縁機関の，専門を活かした共同研究が（早期から）実施されている，③専門家による研究の深化がみられる（例ネズミ），などをあげている。

取り上げる研究テーマには，①イネ関係病害虫の研究が主体である，②ラッキョウ，チューリップなど地域特産物に関する研究が進展している，などの特色がある。また，会報の特色として，①編集方針に特色があったこと（田村市太郎氏の，研究者はもとより，農業者，指導者を意識した編集哲学），②(初期には）論文の長さが自由，などがある。

これらを踏まえ，氏は研究会のこれからの発展に向けて次のように要望している。まず，研究者は，講演した内容は論文として速やかに公表すること。研究内容を詳しく，正しく伝達する義務があるからである。報文数が近年減少しており，これを解消するために，研究発表会ごとに，「研究会で講演した内容は必ず報文とする」よう，事務局から伝言があるが実行されていない。研究者の発表＝論文化，の心構えを望みたい。

また，氏は研究会の運営について，専門家による講演，解説(総説)記事の掲載，シンポジュームや現地検討会の開催などを提言し，講演数が増加することへの対応として日程の延長，会場の分離などを提案している。北陸病害虫研究会のさらなる発展を願い，生誕から現在までをあたたかく見守ってこられた，今は亡き高名な先輩の貴重なご意見として，現行会員は心して聞くべきであろう。

なお，筆者の反省から，研究会員は今後いっそう「農業者の切実な要望を満たす研究課題の設定と現場に役立つ研究成果の提示」および「有機農業，環境調和型農業に関心を持ち，その研究を行う」ことに意を払うべしと考えている。

現在の農業事情は研究会設立当時の，食糧増産一辺倒の時代とはまさに一変し，高品質，良食味，高付加価値，安全・安心…と，食に対する消費者の要求は多種多様化，止まることをしらない。それ故，設立当時の熱意を上回る研究意欲が現在，会員には求められているのではなかろうか。…蛇足ながら，本会の末永い発展を願う一会員として私見を述べ稿を閉じたい。

引　用　文　献

1）秋濱浩三（1950）序文．北陸病虫研報　1：1.

2）福井新聞社編（1955）日本世相百年史．福井新聞社．pp400＋28.

3）岩波書店編（2001）日本史年表（第4版）300－303．岩波書店．東京．pp408.

4）川久保幸雄（1998）第50回北陸病害虫研究会講演要旨集6．北陸病害虫研究会

5）㈳農林水産技術情報協会監修，浅川　勝・西尾敏彦編（2000）近代日本農業技術年表　179－191．農山漁村文化協会．東京．pp534.

6）農林省大臣官房弘報課（1949）農林省編集　昭和24年版 農林年鑑．日本農村調査会．pp483.

7）小野小三郎（1990）北陸病害虫研究会の歴史と今後の展望．北陸病虫研報　38：110－113.

8）徳永芳雄（1951）北日本病害虫研究会の発足に際して．北日本病害虫研究会年報　2.